2023年10月8日礼拝説教要約

ローマ人への手紙に聴く⑲

# 「やがて啓示される栄光」

（ローマ8・18～30）

## 一、キリスト者の苦難

18節をご覧ください。**〈今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないと私は考えます。〉**とあります。**〈今の時の苦難〉**とは何なのでしょうか。前回も確認しましたように、8章1節の**〈今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません〉**の**〈今や〉**です。終わりの時代にあって、神がキリストを救い主として遣わされた**〈今〉**の意味です。私たちが生活をしている時代も含まれます。

その**〈今〉**は、苦難の中にあります。どういう苦難でしょうか。前後関係で考えるなら、前の節の17節に**〈私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。〉**とあります。主イエス・キリストを信じますと、キリストを信じていることの苦難があります。ピリピ書に**「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです」**とあることからも、分かります。みこころに添った苦難であり、苦しみです。そういう**〈今の時の苦難〉**は、言い換えるなら主イエス・キリストを信じることによってもたらされる苦難は、**〈やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りない〉**ものであると、パウロは捉えているわけです。ちなみに**〈啓示される〉**は「覆いが取り除けられる」の意味です。

## 二、全被造物が回復する

将来現される栄光とは、何なのでしょうか。19節に**〈被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。〉**とあります。**〈被造物〉**は、人をかしらとする、すべての造られたものと解するのが適当かと思われます。今私共が目にしている世界、住んでいる世界は、本来のあるべき形ではありません。こういうことを考えていただきたいです。私たちが住んでいる世界は、とても精巧にできています。それは説明されるまでもないことです。なのに、どうして問題があるのでしょうか。聖書は語っています。被造物の頂点である人間、そしてその他の全被造物は、本来のあるべき姿ではないと。なぜ、そのようなことが分かるのでしょうか。創世記をはじめとする聖書を、神の啓示の書と受け止めているからです。こうして、本来の被造物の姿は**〈神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった〉**であったと知ります。ですがひとりの人（アダム）によって罪が世界に入り、人を始めすべての被造物が本来のあるべき姿でなくなりました。しかし希望は残されています。20節、21節です。**〈被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。〉**と。今ある世界の姿は、本来のあるべき姿ではありません。ですが神の御計画によって、回復が始まりました。いつ、どこから始まったのでしょうか。二千年前に、神御自身が分身とも言える御子イエス・キリストを遣わし、罪の贖いを遂げてからです。こうして、主イエス・キリストを信じる者たちから回復が始まりました。そのひとりとして、私共もここにいるわけです。

## 三、御霊の働き

主イエス・キリストを信じる者は、特有の苦しみを担うことになります。ですが、こう知ることになります。「この苦しみは、本来のあるべき姿を失っている被造物の全体が贖われるためのものである」と。そのことを語り続けてくださるのは御霊です。23節です。**〈それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にしていただくこと、すなわち、私たちのからだが贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。〉**と。御霊はすべての被造物が贖われるように、すなわち回復するように、まずキリストを信じる私共に働きかけてくださいました。26節です。**〈同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。〉**とありますが、順序としたら人の贖いが先で、そして他の被造物に贖いが、すなわち回復が及んで行きます。では、すべての被造物の頂点である人間の贖いは、どのようにして始まるのでしょうか。主イエス・キリストを信じることから始まります。キリストを信じますと、御霊が私共の中に住まわれます。御霊は、**〈ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださる〉**とあります。**〈ことばにならないうめき〉**とは何なのでしょうか。おそらく異言による祈りです。そうするなら、27節のようになります。**〈人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。〉**と。

神は、被造物の頂点である人間を始めとして、すべての被造物が贖われるために働き続けておられます。